

# 病気に強い、新しい「ハツシモ」

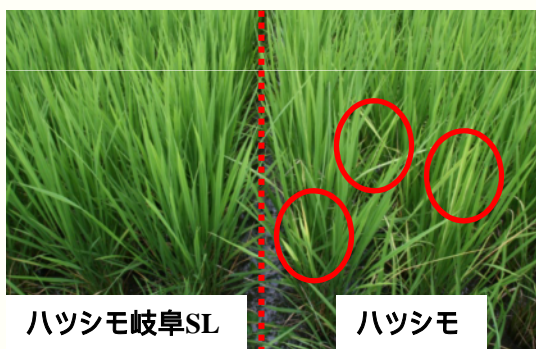
岐阜県で最も多く栽培されている水稻奨励品種「ハツシモ」は平坦部で多発する縞葉枯病に弱いため、栽培に当たっては殺虫剤による防除が欠かせませんでした。当センターで育成した「ハツシモ岐阜SL(品種登録出願中)」は、縞葉枯病抵抗性を持つ「ハツシモ」として、平成21年に奨励品種に採用され、平成22年度からは本格的(栽培面積約9千ha)な栽培が始まっています。



圃場での様子  
左:「ハツシモ岐阜SL」、右:「ハツシモ」



玄米の比較



ハツシモ岐阜SL

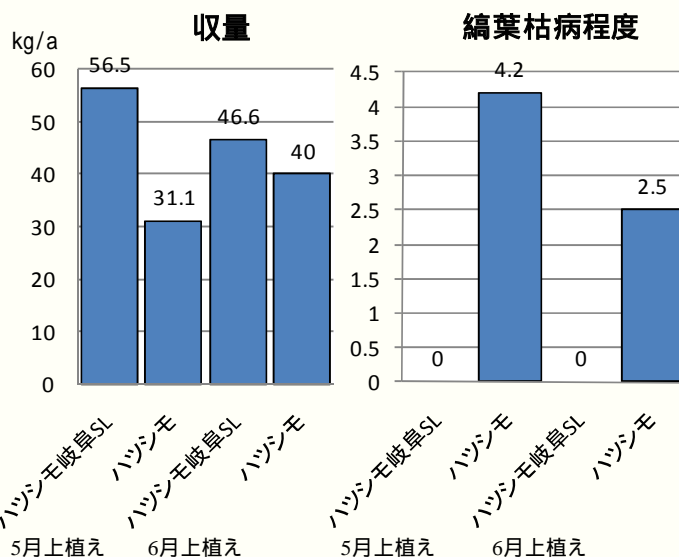
ハツシモ

## 縞葉枯病抵抗性の様子(上図)

「ハツシモ」には縞葉枯病による葉の異常(図中の円内)が見られますが、「ハツシモ岐阜SL」は病徴が見られません。



抵抗性が無い品種は病徴が進むと、葉が巻いてしまいます。(矢印)



## 収量・縞葉枯病程度の比較

縞葉枯病の発生がなく、多収となります。  
(センター内圃場・移植時箱施薬無し条件下のデータ)

## (研究成果)

- ・「戻し交雑法」という一般的な交配方法で育成しましたので、縞葉枯病抵抗性以外の特徴は「ハツシモ」とほぼ同等です。
- ・縞葉枯病に強いことで減農薬栽培に利用しやすくなり、より安全安心なお米の生産が期待できます。
- ・いもち病には弱いため、いもち病の防除は必要です。